

高齢妊娠・出産急増中！

最近、秋篠宮紀子さまが第3子を高齢妊娠で出産されたことが発表され、ご本人のお幸せそうな笑顔が印象的なニュースが流れていた。仕事などのために結婚、出産を先送りにする人が多くなり、高齢妊娠は今やごく自然なこととして受けとめられ、祝福されるようになっている。



芸能界でも高齢妊娠・出産が急増！！



03年にフジテレビの本間欧彦プロデューサー(43)と結婚した女優の財前直見(40)が12月7日、都内の病院で第1子となる3432gの男児を出産。母子ともに健康。財前は「ずっと待ちわびておりましたので、喜びもひとしおでございます」とコメント。本間さんも出産時に病院へ駆けつけ、ベビー誕生を喜んだ。体調と相談しながら女優活動を再開し仕事に復帰していく予定だ。

2006.12.8 スポーツ報知

7月に入籍した女優・一路真輝(41)と俳優・内野聖陽(38)に第1子となる女兒が誕生した。内野が自身のホームページで「母子ともに健康で元気にしております」と記している。

2006.10.31 スポーツ報知





9月26日にタレントの藤森夕子(37)が3252gの男児を出産。他人に思いやりを持って生きてほしいという願いを込めて「有生(ゆうき)」と命名。「ハンカチ王子の早実・斉藤佑樹くんと同じ読み方ですが、うちの子は“笑顔の王子”です」と目を潤ませた。母乳を口に含ませた瞬間に母親になったと実感したそうで「最初にかけた言葉は“よろしく!”元気でんちゃくらいがいい」と有生くん語りかけていた。
2006.10.3 スポーツ報知



11月30日、プロレスラーでタレントのジャガー横田(45)、夫で医師の木下博勝さん(38)に米ハワイで第1子となる長男が誕生。ベビーをお披露目し、「木下 jaguar 大維志(たいし)」と命名した。ジャガーは「米国国籍を持っているのでミドルネームをつけた。私が幸せな人生なので、ジャガーにしました」と説明。木下さんは「マグマ大使からとって“マグマ”にしようと思ったが、ジャガーに一蹴りされた」と明かした。不妊治療を経ての高齢出産。「応援してくださった皆さんのお陰。(無事出産することが)私の使命と思って頑張りました」とあいさつ。陣痛開始から36時間、分娩室に入ってから14時間に及ぶ難産だったとし、「(陣痛に比べると)プロレスは全然痛くない!ただ、今は陣痛の痛みは、もう忘れた。兄弟がいたほうがいいので2人目がほしい」と話した。
2006.12.20 スポーツ報知

世界でも高齢出産急増中!?



昨年末に66歳で出産し、世界最高齢出産を記録したスペイン人女性が、実はロサンゼルスの不妊治療クリニックで55歳と偽って体外受精を受けていたことが分かり、議論を呼んでいる。治療に当たった医師は米紙ロサンゼルス・タイムズのインタビューに応じ、「だまされた」と困惑をあらわにした。

出産したのは、現在67歳になっているスペイン人のカルメラ・ボサダさん。AP通信によると、元デパート店員で独身のボサダさんは、自宅を売り払って費用を捻出し、ロサンゼルスで体外受精を受け、その後バルセロナに戻って双子の男児を出産した。ボサダさんがこのほど米紙のインタビューに答え、ロサンゼルスでの治療に際し年齢を偽っていたことを明

らかにしたことから、波紋が広がった。治療に当たっていた医師はロサンゼルス・タイムズ紙に対し、独身女性の不妊治療の年齢制限を55歳に設定していると説明した上で、「まったく意図しなかった結果だ。10年後に母親は死んでいるかもしれない。子どもたちはどうなるんだ」と不快感を隠さなかった。ただし、女性の権利団体などから「若い女性が子どもをつくって児童虐待に走る場合もある。それでも、ただ若いだけでいい母親というのか」などと反論が上がっているほか、「高齢の男性が子どもをつくっても批判されないのは差別だ」などとの意見も出ている。最も、当のボサダさんはこうした論争に無頓着な様子で、「この子たちの父親になってくれる若い男性を探すわ」と話している。ボサダさんは18歳のブルネット(褐色の髪や目をした女性)の卵子と、金髪で青い目をしたイタリア系米国人の精子を選んだという。





さらに動物界でも...！！
 札幌市・円山動物園のチンパンジー「ガチャ」が1月末に、人間でいえば70歳に当たる約40歳で雄の赤ちゃんを出産し、話題となっている。日本動物園水族館協会は、全国的にも異例の高齢出産としている。ガチャは1967年にアフリカで生まれ、70年に来園。あごひげが白くなり顔中にしわができていたが、無事に6頭目を出産した。母子ともに健康で、体重約1キログラムの赤ちゃんを大事そうに抱いていた。既に一般公開されており、近く名前を決める予定という。チンパンジーは7歳くらいで成熟し、寿命は50年程度とされる。円山動物園飼育課では「チンパンジーは生涯現役というが、本当にびっくりしました」と話している。

2007.2.3 東奥新報

高齢妊娠に伴うリスク

35歳以上で妊娠し出産を迎える女性を高年齢妊婦(以下、高齢妊婦と略)という。30～34歳、35～39歳の女性の出産が増加しており、特に高齢妊婦は今後も増え続けると推測される。また、妊婦・胎児にいずれか、または両者にたかひリスクが予想される妊娠をハイリスク妊娠という。35歳過ぎてからの妊娠は、妊娠高血圧症候群や糖尿病などの慢性疾患、胎盤早期剥離や前置胎盤などの産科合併症が多く、胎児の発育遅延・染色体異常など、胎児の異常の頻度も上昇することが知られていることから、ハイリスク妊娠の一つとされている。したがって、高齢妊娠のリスクは35歳未満に比べて多少高いと考えなければならない。40歳を超えての妊娠は、特にリスクが高くなる。



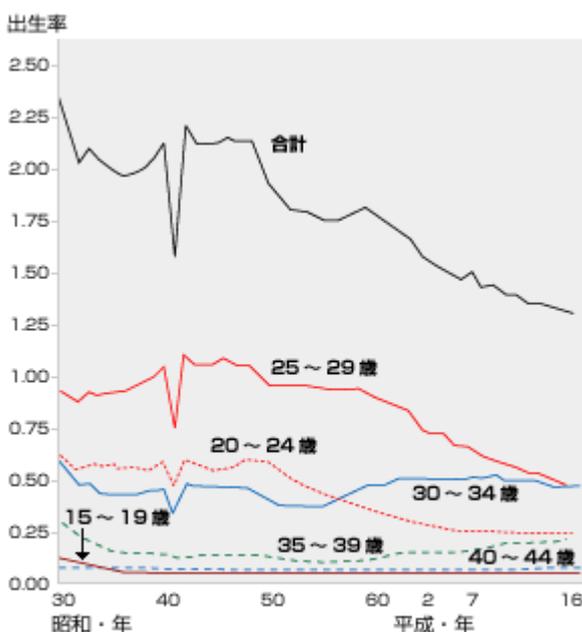
厚生労働省「人口動態統計」から計算すると、2004年に高齢出産をした人は出産をした人全体の15.3%だった。1世代前に当たる1970～1980年にはわずか4～5%だったので、高齢出産が大変増えたことがわかる。

それに伴い、出産平均年齢も上がってきた。東京都では、出産平均年齢はすでに30代の大台に乗っていて、なんと30.3歳(2004年)。全国では28.9歳となっている。少子化の傾向が続く20代の出産は激減しているが、逆に30代の出産は増えている。(左図参照)

多くの人が30代で出産するようになったのは、女性が仕事をしていると20代ではまだ結婚、出産など家庭的なことを考える余裕がないためだろう。逆に言えば、30代で出産すれば、20代の間仕事に専念し、実力、人脈、職場での立場などを手に入れてから余裕を持って出産できるのだ。「仕事も子どもも」と願うことが当たり前の社会になるほど、30代出産は増えるだろう。

しかし、前でも述べたように、ハイリスク妊娠のことを考慮すると、あまり気軽には出産を先送りにしないほうがいいのだ。

合計特殊出生率※の年次推移(年齢段級別内訳)



(厚生労働省「平成16年人口動態統計月報年計(概数)」)
 ※合計特殊出生率: その年次の15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもの。

重症の妊娠高血圧症候群になる率

妊娠高血圧症とは、妊娠20週以降、分娩後12週まで高血圧が見られる場合、または高血圧に蛋白尿を伴う場合のいずれかで、かつこれらの症状が単なる妊娠の偶発合併症によるものではないものをいう。起きる頻度は、20

～30代では変わらないが、35～40歳では1.8倍になっている。

年齢別妊娠中毒症頻度(%)および分布(%)

年齢	重症	分布	頻度	分娩数
～19	15(0.03)	1.6	2.8	541
20～24	96(0.18)	10.3	1.5	6,227
25～29	297(0.54)	31.8	1.4	21,668
30～34	278(0.51)	29.8	1.6	17,858
35～39	181(0.33)	19.4	2.8	6,536
40～44	62(0.11)	6.6	5.6	1,116
45～	3(0.01)	0.3	14.3	21
総数	932名			54,849名

括弧内は分娩総数に占める割合(%)

帝王切開になる率

高齢出産には帝王切開が多いといわれている。実際、35歳未満の帝王切開率が15.5%なのに対し、35歳以上では46.1%という報告もある。ただ、高齢出産の帝王切開には、若い人に比べ、緊急ではなく、予定帝王切開が多いという特徴がある。これは、陣痛を乗り越えて出産する体力的な自信がない、あるいは赤ちゃんにとってもっとも安全なお産にしたいという理由から、妊婦自身が帝王切開を希望する場合もあるからだ。確かに、帝王切開は妊婦にとってリスクを伴うものだが、赤ちゃんにとってはストレスのない方法ではある。産科的な問題がなにもなければ、一般的には経膈分娩を選択する。だが、出産には持久力も必要である。

早産・流産のリスク

高齢妊娠にやや多く見られるリスクとしては、まず早産・流産が挙げられる。実際、一般的な流産率は13%程度だが、35歳以上では20%以上。また早産率も若干高いことが報告されている。

母体の年齢別流産率(1989～94、名古屋市大)

母体年齢	流産率 (流産数 / 妊娠数)
～24	11.2 (28 / 250)
25～29	12.2 (160 / 1,314)
30～34	13.3 (152 / 1,143)
35～39	20.5 (70 / 342)
40～	22.6 (21 / 93)
合計	13.7 (431 / 3,142)

児に与える影響

高齢妊娠で多くの妊婦が心配するのは先天異常かもしれない。卵子の加齢があるため、染色体異常の頻度が35歳未満に比べてやや高くなることは事実だ。そこで、出生前診断を受けようかと悩む人もいる。ただし、検査自体に多少の危険が否定できないものもあれば、検査によってはまだまだ精度の低いものもある。そしてその検査で何がわかるのか、それがわかったときにどういった対応が起こりうるのか、ということ事前に考えておく必要がある。よくいわれる先天異常にダウン症がある。ダウン症の子どもが生まれる確率は、25歳でおよそ1000人に1人、40歳で100人に1人といわれている。つまり、妊婦が25歳の場合、ダウン症ではない確率が99.9%なのに対し、40歳では99.0%だということだ。染色体異常というのはある頻度で全妊婦が等しく負うリスク。確かにそれが高齢だとやや高

いということはあるかもしれないが、著しく高いということはない。そもそも、さまざまな先天異常を併せて考えると、先天異常率というのは年齢を問わず、等しく5%あるといわれている。生まれてすぐわかる先天異常は2%。内臓などの見えないところも含めると5%。つまり、20人に1人。これは全妊婦に共通して授かる可能性のある偶然の出来事だ。

母乳育児の達成率

産後1ヶ月の時点で、どれだけの人が母乳を飲ませているかを調べたもの。高齢出産の人は母乳率がかなり低くなっている。一見「高齢出産って、母乳、出ないんだ」と思うかもしれないが、高齢になると、母乳の勢いはたしかに少し落ちるかもしれないが、社会的な背景も違うということがいえる。たとえば、高齢のワーキング・ママは、重要なポストについたりして、社会復帰を急いだり、粉ミルクを希望する率が高くなる。

産後1ヶ月目の母乳哺育達成率

	高齢初産(35歳以上)	対照群(24~26歳)	P
母乳のみ	13(54.2%)	32(84.2%)	< 0.01
混合哺乳	9(37.5%)	4(10.5%)	< 0.05
粉乳のみ	2(8.3%)	2(5.3%)	-
	(n=24)	(n=38)	

しかーし！！

このような不利と思われる事柄も統計上のひとつのデータであり、すべての高齢妊娠に当てはまるものではなく、高齢妊娠であっても何ら問題のない妊婦も少なくない。あらかじめハイリスクであることを自信が自覚し、認識していれば、早めの対策をとることができ、母子ともに予後の改善につなげることが可能だからだ。

ハイリスク自覚して合併症の予防策を！！

妊娠経過中は、特に妊娠初期から妊娠高血圧症候群などの合併症の予防、生活習慣の改善に努め、分娩に向けての体力を養うようにする。妊娠中の喫煙や過度のアルコール摂取は、胎児発育遅延や早産、胎児の行動異常や精神遅滞などのアルコール症候群を引き起こす。最近では、妊娠中はたとえ少量でもアルコールを控えるべきであるといわれている。そのほか、夜更かしを避け、十分な休養と睡眠をとることを心がける。散歩を楽しんだり、音楽を聴いたり、適度な読書をしたりして精神的なゆとりを持つように心掛ければ、高齢妊娠・高齢出産に伴う合併症を軽減・予防し、お腹の赤ちゃんにも好影響があると思う。あなたの心がけ次第で、高齢妊娠・高齢出産は決して怖いものではなくなるのだ。

2005.10.25 読売新聞

【考察】

高齢妊娠・出産が増加している。女性の社会への進出が当たり前の時代になっていることがよくわかる。また、不妊に悩む女性も増えてきている。そのため、何年もの不妊治療でやっと子どもを授かってそのころにはもう35歳を超えていたりする。芸能界での高齢出産がたびたびニュースで採り上げられるため、女性を中心に高齢出産に関心を持つ人が増えているのは間違いないだろう。しかし、よくニュースやテレビ番組で見るのは高齢妊娠・出産に対す

るデメリットでしかない。もちろん 20 代の妊娠・出産に比べたらリスクは伴いやすい。しかし、少し生活習慣を改めるだけで予防できるものだってあるのだ。

さらに、若い人でも妊娠中に起きた問題に立ち向かっている人はたくさんいる。妊娠はやってみなければわからないし、高齢出産でも若い人と同じように出産している人のほうが多い。そして、子どもが生まれてくることで得られる幸せは、不安に立ち向かうだけの価値は十分にあると考えられる。実際に、高齢出産をポジティブに考える人たちは、「ちゃんと妊娠できたんだから、きっと産めるでしょう」とよく考えるそう。妊娠しにくい年齢なのに妊娠したのなら「この子は生命力が強かった」と思う人もいる。高齢出産をする人はパワーがある。40代で出産した人は、100歳まで生きる確率が高いそう。これを聞くとなんだか元気が出てくる気がする。

また、子育てをととても楽しんでいてという声がたくさんある。その理由のひとつに、年を重ねているということで、人生経験が豊富で忍耐力もあるので、子どもが多少泣いても大らかな気持ちで向かい合えるのだ。「体力がなくて大変なのは」と心配する人もたくさんいるが、育児は「体力のゆとり」より、むしろ「心のゆとり」なのではないかと思う。不安があったら、悪いデータばかり見ないで、周り的高齢出産をして幸せそうな人を探してみるとよいかもしれない。また、ゆとりをもって妊娠生活を送るということも自然とハイリスクへの予防的な行動もとれるようになるのだ。たとえば、晴れた気持ちのいい日に散歩をすると、お産のときに必要な体力や筋肉を鍛えることができるし、妊婦にとっての気分転換、ストレス解消にもなりうる。軽い運動で生活習慣にメリハリがつく。そうすると、気持ちに余裕ができてやすいのだ。世間では若い夫婦による児童虐待が相次ぎ、子どもの命や幸せが簡単に実の親によって奪われている。だから、老若関係なく、ゆとりをもって妊婦生活や育児生活を送って欲しいものだ。

【引用・参考文献】

* 妊娠・出産のお金辞典 <http://syussan.moo.jp/koureisyussan.html>

* 高齢出産のメリットとデメリット <http://hotto.nomura.co.jp/contents/column/woman/200603.html>

* All About その道のプロが、あなたをガイド。 http://allabout.co.jp/children/birth/msub_kourei.htm

* スポーツ報知

* 読売新聞

* 東奥新報

* 産経新聞